

安全で魅力的な自然体験活動のための施設設備充実事業

5,000 円以上ご寄附いただいた方にご芳名を記載した施設の所報をお送りします

子どもたちの笑顔あふれるアスレチックを再び！

山形県内には4つの少年自然の家（朝日・金峰・飯豊・神室）と、1つの分館（海浜自然の家）があり、それぞれの施設に、子どもたちが自然の中で元気に楽しく体を動かすためのフィールドアスレチック遊具があります。

これまで、近隣の幼児保育施設の園児や、小学校の児童、中学校の生徒たちに愛され、日帰り利用や宿泊利用で、山・川・海を肌で体感する自然体験活動を行い、豊かな心とたくましい体を育んでいただきました。

ところが、各施設は昭和46年～60年に設立されており、約40年～50年を経過しております。施設設備の老朽化が進み、屋外に設置されたアスレチック遊具は、風雪にさらされるとともに、イノシシなどの鳥獣による損壊もあり、使用を制限せざるを得ない遊具が増えましたが、老朽化に伴うインフラの整備が優先され、アスレチック遊具の修繕や更新にまでは予算が回らない現状にあります。

施設をさらに安全で魅力的にするためには、施設での生活面の充実だけでなく、各施設の特長を生かしたアクティビティーの充実も必要です。

●フィールドアスレチック遊具の「今」の寂しい姿

現在、各施設には、老朽化や風雪・鳥獣による損壊に伴い、安全面が確保できないため、使用を制限しているフィールドアスレチック遊具が多数あります。



▲朝日：取り残された「冒険の砦」 ▲金峰：切れた「スカイケーブル」 ▲飯豊：「つり丸太」の支柱 ▲神室：「モンキーブリッジ」の橋台

修繕・更新するにも、撤去するにも経費が掛かるため、大型の遊具は倒壊防止や利用者の怪我防止のための掲示やバリケードを施しておりますが、ご覧の通り、とても寂しい姿でたたずんでいます。

●華やかかなりし「昔」のにぎやかな姿

かつては、元気いっぱいの子どもの歓声や笑顔や熱気が、それぞれの遊具にあふれていました。老朽化や風雪・鳥獣による損壊に伴い、安全面が確保できないため、使用を制限しているフィールドアスレチック遊具が多数あります。



▲朝日：「冒険の砦」に登って遠くまで見渡そう！ ▲金峰：「ターザンロープ」でうまく飛び移れるかな？ ▲飯豊：みんなの息を合わせて「つり丸太」を揺らそう！ ▲神室：もう一息で「モンキーブリッジ」を渡り切れるぞ！

●いただいた寄附の使い道について

本事業にいただいた寄附金は、フィールドアスレチック遊具の修繕・更新を始め、カヌーや川遊びで使用するライフジャケットやヘルメット、更にはカヌー本体やテント・キャンプ用品の修繕・更新等に活用させていただき、安全で魅力的な青少年教育施設づくりに取り組んでまいります。